

特集 追悼 古田足日



古田足日が逝った。

「さよなら未明」から55年、評論家として、作家として、日本の児童文学のトップランナーとして走り続けた古田足日。かつて上野瞭は古田の文学を「旗手の文学」と評したが、その旗が指し示したものはどのようなものであり、それはどのように実現されたのか。そして、今古田自身が残した作品はどのように読まれ得るのか。

「現代児童文学」という枠組みが大きく揺らいでいる今、その枠組み形成に決定的な役割を果たしてきた古田足日の仕事を振り返りながら、児童文学のこれからを展望する。